

## 第16回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 6月 15日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

[jin-ogura@management-dynamics.co.jp](mailto:jin-ogura@management-dynamics.co.jp)

### 対策後の維持管理の持続力アップや技能伝承を狙うのであれば

#### 現場第一線の方々、または当事者を分析に参加させることが不可欠！

皆さんのところは、分析するときどんなメンバーで実施しているのでしょうか。

分析をする時にスタッフだけで分析を実施するとともに、対策案も同じメンバーで考えて、その対策を現場に押し付ける、といったことはありませんか。

このようにしてしまうと、維持管理を押し付けられる側も「やらされ感」で作業することになり、ひとたび生産等が忙しくなると、そのことを理由に維持管理を止めてしまい、忙しくなくなってもやらないまま放置されてしまう、といったことになりかねません。

やはり、何にでも言えることですが、自分の参加した会議等で、しっかりした理屈の上で決まったものであって、かつ自分がやらなければならないことについては、意外としっかり実施するものです。

したがって、「なぜなぜ分析」でも同様のことが言えます。

ところで、近年「技能伝承」という言葉が流行していますが、現場第一線のベテランの方々とうそでない方々と一緒にして「なぜなぜ分析」することが、なんと「トラブルを解決していくにあたってのモノの見方・考え方」を伝承することにつながることをご存知ですか。

ベテランの方々には多くの経験や知識をお持ちですが、その中でもなかなか伝承しにくいのが、トラブルの対処に当たってのモノの見方・考え方です。

それもそのはず、トラブルへの対処はケース・バイ・ケースで違うからです。

しかし、そんなトラブルについて、発生の都度「なぜなぜ分析」を皆で実施することで、自然とベテランからそうでない人へ考え方が伝えられていきます。

もちろん、ベテランの管理職に方々が、部下がやった「なぜなぜ分析」にしっかり赤字を入れて添削することも同様の効果があります。

このように「なぜなぜ分析」は、ただ単に原因を追求して再発防止策を導くといった効果だけではなく、現場第一線の方々をしっかりと巻き込むことで、持続的な維持管理や、トラブルに関する技能伝承といった面に大いなる効果が期待できます。

以上